

令和5年度 おへんろつかさ養成講座第6回資料

「納経帳から見た四国遍路の旅」

— 観音寺の札所について —

講 師：香川大学名誉教授

稲 田 道 彦 氏

実施日：令和6年1月14日（日）

場 所：前山公民館

納経帳から見た四国遍路の旅 観音寺の札所について

稲田道彦

1 納経帳を見ていて、神恵院と観音寺の関係について考えたこと。

納経帳の不明な記述

観音寺の納経帳に右同国同所という記述がある。

(寛政4年1792から天保5年1834)

2 古地図に神恵院という堂舎がない

四国徧禮靈場記 元禄2年1689

四国徧禮名所図会 寛政12年1800

松浦武四郎 四国遍路道中雑記 天保7年1836

金毘羅参詣名所図会 弘化4年 1847

3 記録の中の記述

金毘羅参詣名所図会

琴弾八幡宮の社僧 観音寺の記述

観音寺の寺中七坊

西讃府志(天保10年1839から安政5年1858)

弘化録1845 弘化録を書いた光遍は神恵院の法印光遍として表せられる

四国新報 1928 光遍は観音寺の住職として

観音寺市誌 1985

4 神恵院は琴弾八幡宮の別当寺院で、その末寺として観音寺も含んでいた。

神仏分離で神恵院と琴弾神社は分かれたのではなく、それ以前から続いていた形で分離した。

神恵院と観音寺とが別の寺院であることを強調するために神恵院の新しい堂舎が観音寺境内に建てられたのではないかと考えている。